



#I28 Saint Valentin et chansons

愛の歌についての日仏比較です。日本側ではドリームズ カム トルーの歌、そしてフランス側ではディアーヌ・テルとフランス・ギャルの歌を聞き比べてみます。どんな言い回しの違いがあるのでしょうか。レッスンはフランスの歌詞からお送りします。

☆パーソナリティ

ボブ & かおり

Générique et intro

Le 14 février 2009, numéro cent vingt-huit de chocolat, magazine bilingue français – japonais.

Mots d'amour, façon japonaise avec Dreams come true.

Mots d'amour, façon française cette fois avec Diane Tell et France Gall.

「ボブとかおりの話から..」

Bob : Pourquoi est-ce que les choses qu'on aime tellement sont si difficile à exprimer? lu lu lu lu lu.

Les Japonais aiment les chansons d'amour tristes. L'amour, le vrai, semble quelque chose de difficile à dire avec des mots, même en chanson. Kaori, elle, est beaucoup plus directe comme certaines jeunes femmes de la nouvelle génération.

覚えよう petit à petit♪

engourdi

ぐったりした

quand on est femme

女の場合

ces choses-là

そんなこと

vous rendre fou

あなたを夢中にさせる

juste à côté

とてもそば

Bergame

イタリアのロンバルディア地方にある町

Ma déclaration

私の愛の告白

Chansons...

Bob : La première chanson est de Diane Tell, une chanteuse canadienne qui habite maintenant dans le sud de la France.

Diane Tell “Si j 'étais un homme”

Je t'emmènerais en voyage

Voir les plus beaux pays du monde

Je te ferais l'amour sur la plage

En savourant chaque seconde

Où mon corps engourdi s'enflamme

Jusqu'à s'endormir dans tes bras

Mais je suis femme et quand on est femme

On ne dit pas ces choses-là

Je t'offrirais de beaux bijoux

Des fleurs pour ton appartement

Des parfums à vous rendre fou

Et juste à côté de Milan

Dans une ville qu'on appelle Bergame

Je te ferais construire une villa

Mais je suis femme et quand on est femme

On n'achète pas ces choses-là

Bob : L'autre chanson est très célèbre. C'est une chanson de France Gall.

France Gall “Ma déclaration”

Quand je suis seule et que je peux rêver

Je rêve que je suis dans tes bras

Je rêve que je te fais tout bas

Une déclaration, ma déclaration

Question aux Japonais

A part l'amour, qu'est-ce qui est difficile à dire pour les Japonais ?

petite leçon: ぶんぼう一口メモ

I) フランス語の基本

☆条件法について

今までにも何度か(#89、#97 など)取り上げられていますが、今回は、歌のタイトル **Si j'étais un homme** 「もし私が男だったら」にちなんで、条件法を簡単に取り上げてみます。

ではまず、Diane Tell のテキストをよくごらん下さい。タイトルとなっている「もし・・・ならば」にあたる条件節は、歌の冒頭で、**Moi, si j'étais un homme**, と提起されます。その際、条件節の時制は、必ず直説法半過去になることを確認して下さい(étais は être の直・半過去)。

では、帰結節(主節)では、どう歌われているでしょう。つまり、「男だったら」どうするというのでしょうか。全部で、4カ所あります。テキストをよく読み、チェックしてみてください。

いかがでしたか? 解答は、文法説明後の追記の項で確認して下さい。

ところで、実際の歌では、冒頭 **Moi, si j'étais un homme** 「私が男だったら」と歌われ、その後の部分が帰結節(主節)となって続いています。この **Chocolat** のテキストではその箇所が割愛されています。何と言っているのでしょうか。聞き取りにチャレンジしてみてください。ヒントは **être** です。正解は、追記にあります。

さて、バレンタインの女性からの愛ということで、今回のテキストでは **chanson d'amour** (恋歌) が取り上げられていますが、条件法ついでに、**Edith Piaf** (エディット・ピアフ) の、かの有名な **chanson d'amour**、彼女自らの大恋愛を、自ら綴った歌、『愛の讃歌 **L'hymne à l'amour**』の条件法を紹介しましょう。

J'irais jusqu'au bout du monde 「世界の果てまで私は行くわ」(**irais < aller**)

Je me ferais teindre en blonde 「髪を金髪に染めるわ」(**me ferais < se faire**)

Si tu me le demandais 「あなたが私にそうしろっていうのなら」(**demandais < demander** 半過去)

J'irais décrocher la lune 「月だって取るわ(どんな無理もするわ)」

J'irais voler la fortune 「大金を盗んでみせるわ」

Si tu me le demandais 「あなたが私にそうしろっていうのなら」

Je renierais ma patrie 「私は祖国も捨てるわ」(**renierais < renier**)

Je renierais mes amis 「友達だって捨てるわ」

Si tu me le demandais 「あなたが私にそうしろっていうのなら」

On peut bien rire de moi 「みんな私を笑うかもしれない」(**peut < pouvoir** 直説法現在)

Je ferais n'importe quoi 「どんなことでもやってのけるわ」

Si tu me le demandais 「あなたが私にそうしろっていうのなら」

さて、このマルセル・セルダン **Marcel Cerdan** との大恋愛の行方は?

2) フランス語のコツ

☆”à ...”なのに、間接目的語(**me, te, lui, leur** 等)にならず、“à + 強制形”になる動詞について『愛の告白 **Ma déclaration**』のシャンソンに次のような詩句があります。

Je pense à toi, 「あなたのことを思う」

一見なんでもないようですが、実はこの **penser à ...** という動詞は、なかなかの曲者です。今回はこの曲者たちを取り上げてみます。

例えば、**Je téléphone à Paul**. 「ポールに電話をする」という文で、下線部を代名詞にすると、**Je lui téléphone** と、間接目的語にかえて、動詞の直前に置かれることは、ご存知のことと思います。

Je ressemble à ma mère. 「私は母に似ている」

J'écris à mon frère. 「兄に手紙を書く」

は、それぞれ **Je lui ressemble**. **Je lui écris**. となります。

また、**Il m'a donné ce CD**. 「彼は私にこのCDをくれた」のように、一人称の間接目的語は動詞または助動詞の直前に置かれます。

ところが、**penser** については、間接目的語を使うことができないのです。

Je pense à Paul. 「ポールのことを思う」は、絶対に **Je lui pense**. になることはありません。

Je pense à lui. というように、**à + 強制形** の形をとります(**lui** は動詞または助動詞の直前にあるとき、間接目的語です。強制形の **lui** と同じ綴りですので、注意して下さい。参考 **Je pense à Marie**. は、**Je pense à elle**.)。

ですから、「君のことを思う」という表現では、テキストにあるように、**Je pense à toi**. となり、絶対に **Je te pense**. とはなりません。動詞 **penser à ...** は特別と思って、なんども **Je pense à toi**. と復唱して、自然に口から出るようにしましょう。

ちなみに、

Je pense à l'avenir de mon fils. 「息子の将来のことを考える」

のように、**à** の後ろが、「人以外」でしたら、中性代名詞の **y** に代わります。

J'y pense.

それでは、**penser** のように、**à + 強制形** となる動詞は他に何があるのでしょうか。参考までに少し紹介します。

Je songe à toi. 「君のことを考える」 **songer à ...**

J'ai renoncé à lui. 「私は彼を見捨てた」 **renoncer à ...**

Je tiens à elle. 「彼女をかけがえのない人と思っている」 **tenir à ...**

J'ai affaire à vous. 「あなたに用事があります」 **avoir affaire à ...**

もちろん、**être à ...** も強制形を取ります。

Ce sac est à moi. 「そのバッグは私のです」

3) 追記

☆ **Moi, si j'étais un homme** の帰結節は、次の4カ所です。

まず一行目、

Je t'emmènerais en voyage 「あなたを旅に連れて行くのに」 (**emmènerais < emmener**)

次に三行目、

Je te ferais l'amour sur la plage 「浜辺であなたを愛するだろうに」 (**ferais < faire**)

次は第二連目の一行目

Je t'offrirais de beaux bijoux 「あなたにきれいな宝石をあげるのに」 (**offrirais < offrir**)

最後は第二連目の六行目

Je te ferais construire une villa 「あなたに別荘を建ててあげるのに」

☆聞き取りは少々難しかったかもしれません。 **Moi, si j'étais un homme** に続く帰結節は、

Je serais capitaine

d'un bateau vert et blanc 「私は、緑色と白色の船の船長になるだろう」

と、歌われています。 **serais** は **être** の条件法現在ですね。

4) テーマ解説

今回は、**Saint Valentin** (聖ヴァレンティン)の日ということで、女性から告白する恋心を歌った **chanson**(歌)が取り上げられています。ちなみに、**Valentin** とは、二月十四日に娘に選ばれた恋人を指し、**Valentine** は恋人を選ぶ娘を指します。三世紀頃、殉教した **Saint Valentin** (聖ウァレンティヌス) は、『黄金伝説』によると癲癪(てんかん)の保護聖人で、恋愛とは無関係だったようです。恋の伝説は、聖人の日(二月十四日)のころから、野山の鳥たちがつがいを作りはじめるという中世の民間信仰に由来するといわれています。

カナダはケベック生まれの歌手、ディアーヌ・テル(1957年生まれ)は、冒頭に紹介されているように、現在フランスのバスク地方の都市、ビアリッツに住んで音楽活動をしています。彼女がフランスでも知られるようになったきっかけは、次に紹介するもう一人の歌手、フランス・ギャルの夫で、シンガー・ソング・ライターのミシェル・ベルジェ **Michel Berger** が作曲した、ロック・ミュージカル『ジミーの伝説 **La Légende de Jimmy**』で主役の一人に抜擢されたことによります。ここで取り上げられている『私が男だったら』は、彼女が作詞・作曲したオリジナルの曲で、ごらんの通り、条件法を用いることで女の気の強さを表わす反面、帰結節の内容が女のかわいらしさを想像させる、なかなかしゃれ詩句で構成されています。

そのベルジェの妻、フランス・ギャル(1947年生まれ)は、まさに六十年代のアイドルとして、日本でも大ブレイクしました。ヒット曲『夢見るシャンソン人形 **Poupée de cire, poupée de son**』は、今でもCMソングで使われていますから、ご存知の方も多いでしょう。しかし、十代のスーパーアイドルは、その後の人生が厳しいものです。ましてフランス・ギャルのように音楽家として誇りが高く(音楽家の家で育った)、感受性の強い女性歌手にとって、アイドルの殻は、重荷となり、邪魔だったかもしれません。

男性歌手のスーパースター、クロード・フランソワ **Claude François** との恋に破れ、才能あるシンガー・ソング・ライターのジュリアン・クレール **Julien Clerc** ともうまくいかない、失意のフランス・ギャルの前に現れたのは、まさに白馬に乗った王子(**Prince charmant**)とでも言うべきミシェル・ベルジェでした。たちまち二人は恋に落ち、結婚します。その時、ベルジェが書いて作曲したのが、今回取り上げられている『愛の告白』です(注:フランス語タイトルが **La déclaration d'amour** となっているものもあります)。ですから、フランス・ギャルが歌い、告白をしています、実際

は恋するベルジェの胸の内をも吐露しているのかもしれませんが。相思相愛とは、このことなのでしょう。

作曲家ベルジェの都会的センスは、ギャルの求めていたものでした。ロック・ミュージカル『スタルマニア **Starmania**』の成功、娘ポーリーヌ **Pauline** の出産、彼女にとって、仕事も家庭もまさに順風満帆と思われましたが、好事魔多しというのでしょうか、彼女を不幸のどん底に突き落とすような出来事起こりました。夫ベルジェの心臓発作による急死(45歳)です。それから悲しみがやっと癒えた頃の5年後に愛娘の病死が続きます。彼女の嘆きはいかばかりだったでしょう。

そんなフランス・ギャルは、あるインタビューで答えています。

「私を成長させるのは幸福ではありません。 **C'est pas ça qui me fait évoluer, c'est pas le bonheur.** それは、乗り越えるべき試練として与えられたあの信じがたい不幸なのです。そして私はそれを乗り越えたと思います。 **C'est ces choses incroyables qu'on me donne à surmonter, et je crois que je les ai surmontées.**」(NHKの番組より)

日本風に言うなら、還暦を過ぎたかつてのアイドル、それでも不死鳥のように、偶像 **idole** であり続けて欲しいものです。

5) 歌：Mélanie Dahan

Paroles et musique: Georges Brassens "Je me suis fait tout petit"

Je me suis fait tout petit devant une poupée
Qui ferme les yeux quand on la couche
Je me suis fait tout petit devant une poupée
Qui fait Maman quand on la touche.